



国臨協関信

HP: <http://www.alpha-net.ne.jp/users/2/kansinko/>
パスワード: kansin

平成22年 8 月

事務局 〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1
(独)国立国際医療研究センター病院中央検査部内
発行者 田島紹吉
編集委員 渡司博幸・沼田正男・菅原恵子
印刷所 東洋印刷株式会社
☎03-3352-7443

第38回 国臨協関信支部 学会

日時: 平成22年 9 月 4 日(土)

場所: (独)国立国際医療研究センター病院

特別講演

「国際的な潮流の中で臨床検査室(検査技師)に求められるもの」

1. 第三者評価

臨床検査室または検査技師を取り巻く社会の中に、どれだけの第三者評価が存在するのであろうか。ざっと挙げるだけでも、ISO 15189, ISO 9001 (品質マネジメントシステム), ISO 14001 (環境マネジメントシステム), ISO/IEC 27001 (情報セキュリティマネジメントシステム), プライバシーマーク, 病院機能評価, 人間ドック・健診施設機能評価, 医療関連サービスマーク, 労働衛生サービス機能評価, 格付けなど様々な評価が私たちの身の回りで行われている。しかしこれらの第三者評価の受審に関して、国内に強制法はなく、任意の取り組みゆえに温度差が大きいのも事実である。

2. 国際的な標準化と展望

医療の中において臨床検査の重要性は検査室内の業務にとどまらずクローズアップされてきているが、これに伴い活発化してきている標準化の波に、現場レベルでは対応に苦慮されているのではなかろうか。臨床試験(以下、治験)では国際的な標準化の波に乗り遅れていることなど様々な理由から、国内で空洞化現象が生じていることが問題視されて久しい。ISO 15189による国際的な認定制度が国内で開始され5年を迎え、認定臨床検査室も54施設となった。ISO 15189は、臨床検査室がマネジメントシステムを運営し、技術的に適格であり、技術的に妥当な結果を出す能力があることを実証し、第三者に認めてもらうにあたり、臨床検査室が満たさなければならないすべての要求事項を含んでいる。4章(マネジメントシステム)・5章(技術)を幹に多くの事項が要求されているが、理解が困難と思われる点や、これまでの審査の中から注意すべき点を解説する。またISO 15189による臨床検査室の認定は、病院、登録衛生検査所、健診機関、治験機関で既に認定臨床検査室が誕生しているが、昨年度末には病理分野へ認定範囲の拡大がされた。今後ますます国際的な標準化の対象も広がりを見せるであろう。今回の講演を通じて、現在各検査室で実施している業務と比してISO 15189認定取得が決して高いハードルではないこと、また今後の世界的な潮流の中で必要な取り組みとなってきたこと、多くの検査室を抱える組織ほど標準化の効果が期待できることを実感頂けると幸いである。

3. (社)東京都臨床検査技師会の活動

最後に、(社)東京都臨床検査技師会では、臨床衛生検査技術の研究開発を図るとともに、臨床検査技師、衛生検査技師の倫理の高揚並びに資質の向上を図り、もって臨床衛生検査の普及啓発を行い、都民の医療、公衆衛生の向上に寄与することを目的として活動している。例年、学術研修会の開催、臨床検査の普及啓発活動、地域保健共催事業などを展開しているが、本年度は特に渉外部の活動を活発化し、関係諸団体との連携強化を図るとともに、標準化事業および日臨技で予定されている標準化に関する施設認証にも積極的に取り組んでいく予定である。

講師プロフィール



社団法人 東京都臨床検査技師会 会長
公益財団法人 日本適合性認定協会 部長補

下田 勝二 先生

〔学歴〕

1986年 3 月 学校法人 日本医科大学日本医学技術専門学校 卒業

〔職歴〕

1983年 佐々病院(現:特別医療法人社団時正会 佐々総合病院) 臨床検査科勤務

2001年 同、兼任リスクマネージャー

2005年 同、臨床検査科 科長(技師長)

2010年 財団法人 日本適合性認定協会 認定センター 課長

2010年 同、認定センター部長補 現在に至る

〔学協会活動〕

1994年~2000年 東京都臨床検査技師会 幹事

2000年~2004年 東京都臨床検査技師会 理事

2004年~2006年 日本臨床衛生検査技師会 理事

2006年~2010年 日本臨床衛生検査技師会 常務理事

2010年~現在 東京都臨床検査技師会 会長

関甲信地区理事事務局長

日本臨床衛生検査技師会 代議員

日本臨床衛生検査技師会 診療報酬対策委員

〔その他〕

2004年 認定輸血検査技師制度協議会 委員

2004年~2006年 衛生検査所業公正取引協議会 運営委員会委員

2008年~現在 日本臨床検査標準協議会 ISO/TC 212 国内検討委員(WG3)

2009年~現在 同、JCCLS用語委員

〔講演〕

ISO・品質マネジメント関連、医療安全に関する研修会等 講師・講演 国内外多数

COOL BIZ 宣言

学会には、どうぞ涼しげな軽装でご参加ください。
支部役員もノーネクタイで務めさせていただきます。

第38回 国臨協関信支部学会 日程表

	第1会場 (5階大会議室)	第2会場 (4階セミナールーム)	第3会場 (4階第1会議室)
9:00	総合受付 (5階ロビー)		
9:25	開 会 式		
9:30 12:07	一 般 演 題 1～4 一般・生化学・免疫 5～8 一般・生化学・免疫 9～11 輸 血 12～15 その他 (9:30～11:48)	一 般 演 題 16～18 生 理 19～21 生 理 22～24 生 理 25～28 生 理 29～31 生 理 (9:30～11:58)	一 般 演 題 32～34 病 理 35～38 病 理 39～42 細 菌 43～45 細 菌 46～48 細 菌 (9:30～12:07)
12:15 13:15	教育セミナー 「生理、細菌、輸血部門」 座長：山崎 剛	臨床検査技師長協議会総会 会場：研究センター 会議室 A, B 12:10～13:10	
13:25 14:55	業務改善セミナー 「分析器機更新の方向性を探る」 座長：宮原 行雄		
15:10 16:40	特 別 講 演 「国際的な潮流の中で臨床検査室 (検査技師) に求められるもの」 (社)東京都臨床検査技師会会長 下田 勝二先生		
16:50 17:10	学会セレモニー 閉会式		



[教育セミナー] (第一会場 12:15～13:15)

「生理、細菌、輸血部門」

新人技師や日常業務と異なる日当直の緊急検査業務等で不安な気持ちを抱えつつ検査に当たられている方もいると思います。今回のセミナーは心電図検査、細菌検査、輸血検査について、検査の基礎及び検査“こつ”を中心にお話していただきます。

座長：山崎 剛 (NHO下総精神医療センター)
 演者：内田 ゆみ (NHO埼玉病院)
 後藤 智彦 (NHO下志津病院)
 深澤 文子 (NHO東京医療センター)

[業務改善セミナー] (第一会場 13:25～14:55)

「分析器機更新の方向性を探る」

—分析器機の更新に伴う検査科(部)運営構想—

検査器機は更新をしなければならない時期があり、どの施設でも器機更新に苦慮されていることと思います。今回のセミナーは検査器機の整備を行った経緯、導入によるメリット、デメリットと今後の展望を中心にお話していただきます。

座長：宮原 行雄 (NHO西埼玉中央病院)
 演者：日吾 雅宜 (NHOまつもと医療センター松本病院)
 中島 治 (NHO横浜医療センター)
 當銘 良也 (NHO神奈川病院)
 浅里 功 (NHO相模原病院)

第38回 定期総会議事録（要旨）

日時：平成22年 4 月24日（土）13：10～13：40

場所：東京都中小企業振興公社秋葉原庁舎 3階 第1会議室

1. 開会の辞 林事務局長

2. 議長選出

- 1) 議長 原田 正一（NHO災害医療センター）
- 2) 書記 会田 春光（NHO千葉東病院）
仲間 盛之（NHO千葉東病院）

3. 支部長挨拶

平成21年度活動報告内容および平成22年度事業方針案についてご審議よろしくをお願いします。

4. 審議事項

- 1) 平成21年度経過報告について（抄録集付定期総会議案書参照）
林事務局長から総括および事務局経過報告、各部より経過報告が行われた。
学術部 橋本理事
広報部 峰岸理事
- 2) 平成21年度一般会計報告（別紙配布試料参照）
沼田理事より報告
- 3) 平成21年度会計監査報告
川畑 久（NHO西新潟病院）会計監査より報告
平成22年 4 月17日（土）独立行政法人国立がん研究センター中央病院において、下記の通り会計監査を実施したので報告いたします。
①監査内容：平成21年度一般会計
（平成21年 9 月 1 日～平成22年 4 月30日）
②講評：一般会計の予算執行は適正であり、収入支出台帳をはじめ帳簿整理、証拠書類、預金通帳、現金管理等すべて適正に行われていることを認めます。

【質疑応答】

（フロアーからの質疑なし）

（平成21年度経過報告、平成21年度会計報告、平成21年度会計監査報告について拍手多数で承認された。）

原田議長：第1号議案と第2号議案は一括審議とさせていただきます。

- 4) 第1号議案 平成22年度事業方針(案)（抄録集付定期総会議案書参照）

渡司副支部長より事務局事業方針(案)、学術部事業方針(案)、広報部事業方針(案)について提案

- 5) 第2号議案 平成22年度予算(案)（別紙配布試料参照）沼田理事より平成22年度予算(案)について提案

【質疑応答】

（フロアーからの質疑なし）

（第1号議案、第2号議案について拍手多数で承認された）

- 6) 第3号議案 （抄録集付定期総会議案書参照）

三浦支部長より国臨協関信支部規約改正と旅費規定の変更について提案

【質疑応答】

（フロアーからの質疑なし）

（第3号議案について拍手多数で承認された）

原田議長：審議された議案全体で、再度質問等はありませんか。

（フロアーからの質疑なし）

原田議長：各議案が承認されましたので、議案の（案）を削除してください。

- 7) 第37回国臨協関信支部学会会計報告

沼田理事より報告（会場でプロジェクターにて報告）

【質疑応答】

（フロアーからの質疑なし）

（第37回国臨協関信支部学会会計報告について拍手多数で承認された）

三浦支部長より補足：例年一年遅れで報告されていた国臨協関信支部学会会計報告は平成22年度より一般会計報告の中で「学会関係費」として同時に行う。よって会計監査で一括して判断していただくことが出来る。

原田議長：ただ今の説明をご理解いただきまして次年度の総会時に対応、よろしく願いしたい。

5. 役員選出および新旧役員挨拶

小林 和博（国立国際医療研究センター）役員推薦委員長より役員候補者が発表された。（スライドにて新役員名を投影）

支部長

田島 紹吉 国立精神・神経医療研究センター病院（新任）

副支部長

渡司 博幸 NHO 霞ヶ浦医療センター（留任）

林 亮 NHO 下志津病院（新任）

事務局長

峰岸 正明 NHO 相模原病院（新任）

常任理事

北沢 敏男 国立国際医療研究センター（留任）

山田 晶 NHO 東京医療センター（留任）

沼田 正男 NHO 埼玉病院（留任）

山崎 茂樹 国立成育医療研究センター（留任）

橋本 洋二 国立がん研究センター中央病院（留任）

菅原 恵子 NHO 東京病院（新任）

仲間 盛之 NHO 千葉東病院（新任）

金子 勇 NHO 災害医療センター（新任）

平原 博美 国立国際医療研究センター国府台病院（新任）

会計監査

太田 雅司 NHO 高崎総合医療センター（新任）

近藤 正 NHO 箱根病院（新任）

〈拍手多数で新役員が承認された〉

・退任役員挨拶

三浦支部長

副支部長を一期、支部長を四期務めさせていただきました。この間皆様のご支援、ご協力の御陰をもちましていろいろな方とも知り合う事が出来ました。大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。思い残すことはありません。ありがとうございました。

吉田副支部長

3年8ヶ月、四期に渡り主に学術活動を務めさせていただきました。その間、研修会、学会、文化活動を通して皆様のご支援、ご協力を非常に感じた期間です。今後とも関信支部をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

川村理事

3年8ヶ月、四期に渡り学術活動を中心に努めさせていただきました。支部会員の皆様には大変ご協力をいただきました。今後は一会員として応援していきたいと思っております。今後とも関信支部をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

久間理事

広報活動を2期、1年8ヶ月頑張りました。今後は一会員として関信支部活動に参加していきたいと思っております。ありがとうございました。

会田理事

今回で2度目の理事を務めさせていただきました。前回は検査技師の地位向上のために働きました。今回はいろいろな事にチャレンジさせていただきました。どうもありがとうございました。

・新役員挨拶

田島支部長が代表で挨拶

新執行部承認していただきましてありがとうございます。新執行部はかなり入れ替わりがありますが、三浦支部長の後を引き継ぎ不慣れな分、皆様のご協力とご理解をいただきまして会を進めていきますのでよろしくお願いいたします。

6. 議長、書記解任

原田議長：議長および書記を解任させていただきます。

7. 閉会の辞

林副支部長：最後までご協力ありがとうございました。

これを持ちまして第38回国臨協関信支部定期総会を終了いたします。

議事録作成 仲間盛之 会田春光

平成21年度退職会員を囲む「合同交流会」に参加して

NHO西埼玉中央病院 川 村 公 彦

4月24日（土）アルカディア市ヶ谷において、関信支部主催の合同交流会が開催されました。合同交流会は私が支部役員の1年目からスタートし、今年で4回目となります。過去3年間、私は写真係として退職者と会員の皆様とのベストショットを撮ることに専念しておりました。今回は支部役員を退任させていただくことになり、最後の仕事として出席しました。

当日は好天気に恵まれ、今年は退職者8名、OB会の先生方34名、会員210名と総勢252名の参加者となりました。会は林事務局長の開会宣言ののち、退職者の紹介、三浦支部長の挨拶、永井専門職および秦OB会会長の祝辞、小林技師長協議会会長の乾杯の発声でスタートしました。毎年恒例のクラッカー（100発準備）も一斉に鳴らされ（フライング若干1名あり）、一段と場が盛り上がりしました。

歓談時には、例年以上に退職者の方々やOB会の先生方とご挨拶をする機会に恵まれ、自分が20代の頃に同じ職場で一緒にいたOBの先生方からは、今だから話せる苦労話（ちょっとだけ暴露話もありました）を聞くことができ、複雑な思いと共に過去を懐かしむこ

とができました。出席した会員の皆様も思い思いに楽しんでいられました。以前の職場の仲間と2次会、3次会に行かれた方も多かったのではないかと思います。会が進み退職者のご挨拶では、懐かしい思い出話や近況報告、今後のご予定を話していただきましたが、還暦を過ぎ、自動車運転免許の取得にチャレンジされる退職者の方もいらっしゃいました。最後は会場から臨時の司会者（若干暴走気味？）まで登場し、会を必要以上に盛り上げていただき、名残を惜しみながらの閉会となりました。

最後に、今回退職されました皆様におかれましては、長い間本当にお疲れ様でした。今後とも国臨協へのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。これからもお体に気をつけてご活躍されることをお祈りいたします。

また来年の合同交流会を楽しみにしている会員の皆様も多くいらっしゃると思います。5回目となりますが、どのような新しい演出が飛び出してくるのか私も楽しみにしております。関信支部役員のご健闘をお祈り申し上げます。



新人研修会に参加して

独立行政法人国立成育医療研究センター

飯 島 健 太



平成22年5月26日、27日の2日間、新人研修会に参加させていただきました。研修会には臨床検査技師の他に薬剤師、放射線技師、理学療法士、作業療法士等の方々も参加しました。研修初日の午前中に「国立病院機構の現状と病院職員としての心得」についての講義を受けました。

午後には「新採用職員として必要なこと」をテーマにした各医療職先輩の方々から新人職員当時の悩みや考えなどをスライドにて報告していただきました。普段は聞く機会の少ない他職種の話も聞くことができ、とても参考になりました。種職別分科会では、「患者サービスについて」を各2グループに分かれて討議しまし

た。皆、それぞれに自分の考えを出し合い、「自分が努力することが、結果的には患者サービスにつながるのではないか。」という結論になり、最後の全体発表会に臨みました。また、自分たちとは意見の違ったグループの話も聞けて視野が広がりました。2日目は「EQを発揮した患者様とのコミュニケーション」という内容で電話対応、対面対応など講義を受けた後、実際の演習も行いました。声のトーンや表情で相手の取り方、感じ方に違いが生まれることなど、普段何気なく使っている言葉の大切さに改めて気付かされました。今回新人研修会を通して、多くの職員と意見交換することで、モチベーションの向上と自己目標を確立することができました。また、この研修会に参加した多くの仲間たちと楽しく、時には「よきライバル」としてこれからの臨床検査技師を盛り上げていく一助になれるよう精一杯頑張ります。最後にこのような貴重な機会を与えてくださった関信ブロックやご協力してくださいました皆様に深く感謝申し上げます。

『感染症対策と臨床検査部門の役割』に参加して

NHO千葉東病院

小 関 満

平成22年4月24日（土）に東京都中小企業公社秋葉原庁舎にて国立病院機構本部 医療部長の梅田珠美先生の講演を拝聴しました。当日は快晴でとても暑く春だと思えないような日でした。しかも会場は熱心な参加者であふれ、異常なほどの熱気のなか始まりました。

はじめに4月23日に行われた国立病院機構に対する事業仕分けのお話をいただきました。相手は長い話では聞いてくれないのでポイントをまとめ要領よく伝えること、特に質問に対する答えには相当ご苦労された様子がうかがえました。

本題では、国立病院機構の特徴である、全国ネットワークを持つ強みについて、インフルエンザ全国感染動向の作成、治験データ収集の速さなどを例にとりお

話下さいました。特に新型インフルエンザ発生時の成田空港での水際対策について、感染疑いの渡航者をホテルに待機させ感染拡大を防いだと同時にデータを集めたことなどを解りやすく説明して頂きました。さらに鳥インフルエンザをモデルとした国内感染症流行時の対応方法や、大流行の歴史、畜産からの感染など学術的内容についてもお話いただき、感染症について不勉強な私は大変ためになりました。

検査技師に求められることについては、感染対策委員会など院内感染対策への参加・貢献することの重要性や細菌検査室からの情報提供の必要性などを挙げていました。現在行っているこれらの事をより充実させるには、我々検査技師の横のつながりが非常に大切であると思いました。最後にこの特別講演のために、ご尽力下さいました奥田専門職、永井専門職、三浦支部長をはじめとする関信支部役員の皆様に感謝いたします。

千葉医療センター開院について

NHO千葉医療センター 土 志 田 健

平成22年6月1日に新生千葉医療センターが誕生しました。新病院は、救急外来や手術室、病室を備える高層棟（8階建て）、管理部門を配置する低層棟（3階建て）、放射線治療のリニアック棟など計6棟で構成されており、延べ床面積が32,000㎡と旧病院の1.7倍に拡張されました。また、診療体制は頭頸部外科、消化器外科、乳腺外科を新設し、27診療科体制となりました。

病床数は455床と変わりますが、快適性を重視した病室設計と救急病棟を始め、将来的にホスピス病棟を見据えた個室病棟を開設し、地域の中核医療施設としてのニーズに応えるべくパワーアップしています。

臨床検査科は高層棟にあり、延べ床面積は約818㎡で、中央検査室（約244㎡）・微生物検査室（約50㎡）・病理検査室（約192㎡）・生理機能検査室（約160㎡）・超音波検査室（約99㎡）および技師室他（約73㎡）とゆとりある検査室が構築されました。新棟では電子カルテシステムが導入され、検査科におけるハードウェア面では、検体検査・生理検査・病理検査・輸血検査・微生物検査の各部門システムを更新および導入するとともに、検体検査では生化学自動分析装置、自動免疫測定装置、血糖・HbA1c測定装置、尿定性分析装置、全自動尿中有形成分分析装置など、血液検査自動分析装置を除く大部分の分析装置が更新され、TAT（Turn around time）の短縮が可能になりました。また、血液製剤を取り扱う輸血管理室を配置したほか、微生物検査室は陰圧化と独立空調、病理検査室はホルマリン対策を考慮した設備と空調を備え、超音波検査室を含めた生理機能検査室ではストレッチャーでの検査も想定したゆとりあるスペースを確保することができ、今

まで設計に携わってこられた方々の知恵と熱意を集大成することができました。ソフトウェア面では採血業務へのより積極的な参画として、採血業務を8時15分から開始するほか、最大3人の検査技師を投入するなど、患者サービスを第一に考えた業務体制および効率的人員活用に取り組んでいます。

この様に充実ハードウェアの整備により、『精度の良い検査結果をより迅速に報告』という課題は一步前進しました。しかし、病院から今後必要とされる院内検査科として存続していくためには、ソフトウェア面である我々臨床検査技師の更なる知識の習得と技術の研鑽はもちろんのこと、新たな視点での創意工夫が必要不可欠であり、私達はこれからがスタートであると考えています。千葉医療センターではこのことをスタッフ全員の共通認識として、一丸となって前進したいと思っております。



「平成22年度てんかんに関する研修会」 に参加して

NHO長野病院
松 枝 岳 志



平成22年7月21日（水）から23日（金）の3日間、国立病院機構西新潟中央病院において、てんかんに関する臨床検査技師研修会が開催されました。

私は現在、生理検査業務の神経生理を主に担当していますが、まだ1年程度の経験ですので、今回の研修ではてんかんにおける専門的知識と豊富な症

例に触れることを目的として参加しました。

研修1日目は、てんかんと脳波の基礎・判読、診断と治療についての講義を受けました。てんかんの定義、発作型、治療や脳波の基礎的な判読方法、海外のてんかんに関する話題など実際の波形や発作をとらえた貴重な動画を用いての内容であり、今まで「点」だった知識が「線」で繋がりました。

研修2日目は、てんかんの外科治療と硬膜下記録、皮質機能検査マッピング、日本国内でも珍しいMEG（脳磁図）についての講義でした。またMEGの測定も見学させていただき脳神経について沢山の知識を得ることができました。更にMEGの記録法として誘発脳磁図を行い、てんかんの外科治療だけでなく脳腫瘍手術前の機能マッピングにも用いられているということも学びました。

研修3日目は、てんかん病棟と長時間脳波検査、脳波記録の現場を見学しながら記録に関する技術的なことを教えて頂きました。発作を起こした患者への対応は、未だ直面したことがない私には特に不安に思っていたことなのでとても勉強になりました。それと同時に自分の知識の無さ、経験の浅さに気付き、改めて気が引き締まる思いでした。日々の業務でただ脳波検査を行っているのではなく、患者が脳波検査を受ける背景も考えながら検査業務に臨みたいと思います。そして経験を積み、これからも自己のスキルアップに努めていきたいと思います。

最後に、この有意義な研修会を開催してくださった方々、お忙しい中講義をしてくださった先生方に深く感謝申し上げます。



第1回 研修会(病理)に参加して

NHO災害医療センター
我 妻 美由紀



平成22年6月19日（土）国立がん研究センター中央病院において第1回関信支部主催研修会（病理）が開催されました。当日は蒸し暑い梅雨空の中、遠方からも多数の参加があり会場は満員でした。今回は筑波大学附属病院病理部の古屋 周一郎先生に「免疫染色の基礎と最近の動向

について」を講義していただきました。

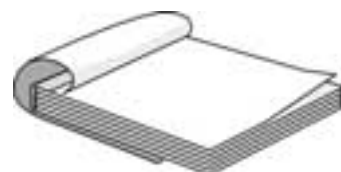
免疫染色の基礎知識としては病理に携わっていない方にも分かるように、固定や免疫染色の原理を歴史とともに話して頂きました。病理を担当している私も恥ずかしながら初耳なことも多く、病理の基礎を再確認出来ました。

精度管理については、今年の日臨技精度管理で初めて平滑筋アクチンの免疫染色がオブションで行われたこともあり注目の話題でした。今まで外部精度管理はほとんど行われておらず、どのように内部精度管理を行っていくべきか迷っていました。筑波大学では様々な固定条件の臓器を1ブロックにして標準物質として用いているそうです。先生の『出てきた染色結果を深く考察できる情報・知識・観察力が必要だ』という言葉に、ただ染色するだけでなく、その染色が正しいものなのかを評価できる目と技術を持たなくてはならないと改めて痛感致しました。また一日の染色枚数によってどのようなコントロールの立て方をすべきかアドバイスを頂き大いに参考になりました。

最近の動向としましては悪性腫瘍の個別化治療が進み、薬剤の投与対象を選別する為に免疫染色での評価が必要とされてきているということでした。これは新薬が認可される毎に増加しています。これからは免疫染色も定量的に用いられる方向にあり、より確立された精度管理が求められていると感じました。

私も常に新しい情報にアンテナを張り、時代の流れに置いていかれないよう、今回の講義を生かして当院にあった免疫染色のあり方を再検討していきたいと思っています。

最後に本研修会を企画・運営していただいた国臨協関信支部役員の皆様、御多忙の中講義いただきました古屋先生に深く感謝いたします。



地 区 会 だ よ り

第30回国臨協関信支部茨城地区会定期総会および研修会を終えて

NHO水戸医療センター 下 重 さゆり

平成22年5月8日（土）、茨城県立県民文化センターにおいて、第30回国臨協関信支部茨城地区会定期総会及び研修会が行われました。当日は多数の会員参加のもと、関信ブロックより永井臨床検査専門職、関信支部より田島支部長、林副支部長のご出席をいただきました。

研修会では始めに、茨城県赤十字血液センター業務課長の武井浩充先生より「血液センターにおける検査業務の変遷と最近の採血供給状況等」と題してご講演をいただきました。血液センターで行われている検査システムや、輸血後移植片対宿主病(輸血後GVHD)の発生機序から症例まで、さらに全国の採血供給状況や茨城県の血液製剤自給率など幅広い内容のものでした。安全な輸血を行う上で、病院と血液センターの連携が重要であることを改めて実感しました。

また、永井臨床検査専門職より「業務連絡」と題して、国立病院機構の現況、各認定資格取得状況や検査試薬共同購入、精度管理結果報告、気になる今後の人事などについて盛り沢山のお話していただきました。

研修会終了後定期総会が行われ、平成21年度経過報告、会計報告、会計監査報告の承認を受け、引き続き平成22年度事業方針、予算案が提案され満場一致で承

認、中島 哲会長(水戸医療センター)をはじめ次期役員を選出し無事終了いたしました。

その後、会場を居酒屋「蔵矢」に移して、武井先生、永井専門職、関信支部役員の方々にも出席いただき懇親会が盛大に行われました。たくさんの笑い声と美味しい料理やビールに囲まれながら会員相互の親睦を深め、大盛況のもと終宴となりました。

最後になりましたが、ご講演していただきました武井浩充先生、永井臨床検査専門職、ご出席いただきました関信支部役員の田島支部長、林副支部長に心より御礼申し上げます。



「千葉地区会勉強会に参加して」

NHO下志津病院 中 島 菜穂子

2010年4月17日土曜日、みぞれ混じりの雨が降る悪天候にも関わらず52名参加のもと、平成21年度第2回千葉地区会勉強会が下志津病院にて開催されました。

今回のテーマは4月から新採用された方、日ごろ夜間・緊急検査などで困っている技師の方々を対象に、「緊急検査のチェックポイント」と題して行われ、各施設1部門を受け持ち、副技師長を中心にご講演いただきました。内容及び講師は心電図を中心とした生理部門について国府台病院の澤部主任、グラム染色を中心とした微生物について千葉医療センターの土志田副技師長、採血業務についてがん研究センター東病院の吉川副技師長、尿沈査・髄液検査を中心とした一般検査について千葉東病院の仲間主任、血液検査部門について下志津病院の海原副技師長、生化学・免疫部門について下総精神医療センターの山崎副技師長から緊急検査における検査結果の解釈、注意点など、普段自分が担当していない検査や苦手とする項目について丁寧に教えていただきました。

思い出せば私も新採用のとき、まず初めに不安に思ったことが当直でした。



日常検査では何か分らない事があれば、先輩方について解決できた事を、全て一人で判断し迅速に行動しなければいけないというプレッシャーが重くのしかかり、それは消えることなく実は今でも当直は緊張しています。

今回の勉強会によって得られた、新たな視点や知識を今後の実践に活かして、少しずつ不安の解消に努め、より良い検査結果情報を臨床へ提供して行きたいと思っています。





ビアパーティーに参加して

NHO埼玉病院 小 林 昌 弘



平成22年7月17日（土）、国臨協関信支部主催のビアパーティーが大手町の銀座ライオンにて開催されました。梅雨が明け、雲ひとつない空は夏の到来を感じさせ、ビールで咽喉を潤すには絶好の日和となり、多くの会員の方が参加されていました。

会は田島支部長の挨拶のあと乾杯で盛大にスタートしました。初めて参加するビアパーティーに緊張し、戸惑いを感じていましたが、次々と注がれるビールを飲みながら、一緒に席になった方々とお話をしていくうちに緊張は和らぎ、段々と会を楽しむことができるようになっていきました。時間が中頃まで進むと催し

物が行われ、会は一層盛況なものとなり、多くの方は自らの席を離れ、それぞれの知り合いの方々とお話をされていました。そんな中私も諸先輩に連れられ多くの方にご挨拶をし、お話をさせて頂きました。

今回初めてビアパーティーに参加させていただき感じたことは、国臨協の繋がりの強さでした。働いている施設が異なっても全員が仲間であるのだということ強く感じ、私もその中の一員として恥じないよう日々努力することを改めて決意することができました。

最後になりましたが、このような会を主催して頂きました関信支部役員の皆様には深く感謝申し上げます。どうもありがとうございました。



症例検討会の症例公募について

症例検討会の症例呈示施設を公募いたします。

本年度の症例検討会は平成23年2月に開催する予定です。症例を呈示していただける施設がございましたら、下記連絡先までお知らせ下さい。

なお、呈示症例につきまして、発表の有無および分野等の指定はありません。

応募の締め切りは平成22年10月1日（金）とさせていただきます。

連絡先：

国立病院機構 千葉東病院
臨床検査科 仲間 盛之
[TEL] 043-261-5171 [内線] 2231
[mail] n.moriyu@cehpnet.com

人 / 事 / 異 / 動

【平成22年6月30日付 辞職者】

氏 名	施設名	役職名
筑井 とよ美	高崎総合医療センター	主任技師 辞 職

【平成22年7月1日付 異動者】

氏 名	新施設名	役職名	旧施設名	役職名
中 村 良 幸	高崎総合医療センター	主任技師	国立成育医療研究センター	技 師
井 戸 昌 輝	国立成育医療研究センター	技師(採用)	国立成育医療研究センター	非常勤

編集後記 暑さ対策に緑のカーテンをベランダに設置してみた。なんて言ったら聞こえはいいが、新鮮な野菜を食べようと思ってきゅうりとゴーヤを栽培しているのだ。しかし、これまでに収穫できたのはきゅうり1本、ゴーヤ6本。やはり土作りから取り組まないと駄目ってことですね。

広報部：菅 原 恵 子